

原著

子どもの提示的呼びかけについての一考察(3) —保育所1・2歳児クラスの二人の子どもの事例をもとに—

中島 寿子

〈要 旨〉

保育所1・2歳児クラスで一年間の参加観察を行ない、提示的呼びかけの事例を収集した。今回はその中の二人の事例を取り上げ、提示的呼びかけについて、その子どもの自己の意識とも関連させながら考察した。

その結果、ある女児の事例では「こんなことができる自分」を感じた時に友達や保育者によく呼びかけ、そういう自分をより実感していた。ある男児の事例ではモノを作り上げた際によく呼びかけ、「こんな素敵なモノを作った自分」を感じていた。そして、両者とも「こんな面白いことをしている自分」を見せる時は友達と筆者に、「不安な自分」を見せて支えてもらいたい時には信頼できる担任保育者に呼びかけており、提示的呼びかけの内容によって相手を選んでいることも明らかとなった。

キーワード：提示的呼びかけ、保育所、1・2歳児クラス、自己の意識、参加観察

I 問題と目的

子どもたちと生活を共にしていると、「みて」「みて」と呼びかけられることがよくあるが、福崎¹⁾はこのような呼びかけについて、幼稚園児を対象として参加観察とビデオ録画で収集した事例をもとに検討している。そして、様々な視点から考察を重ねているが、このような呼びかけに二つの場合があることは考慮していない。やまだ²⁾は、他者に見てもらおうように働きかける行動には、指さしのように「並ぶ関係」を求めると「提示の関係」(図1参照)を意図する場合があり、両者は〔私〕と〔他者〕の位置関係が違うと言

う。そして、人は自分と「私たち」という「並ぶ関係」をつくるのか、「私」を見る「観客」として機能するかの亀裂は、1歳、2歳代において〔私〕という自己の意識が芽生える頃には、はっきりしてくるであろうと指摘する。

保育所での参加観察をもとに自己の育ちについて考察した阿部も、子どもたちは所有意識が芽生え、身体を所有するようになる1歳半頃から、思い入れのあるモノや自分の身体を操作することにこだわる(「自分で」を主張する)ようになり³⁾、2歳代から3歳代になると、この欲求(気持ち)、この身体、この物(お気に入りの玩具や自分の持ち物)、こうすること(行為)が他から区別された「一つのまとまり(自己の領域)」として意識されるようになるという⁴⁾。同じく保育所での参加観察をもとに子どもの笑いについて考察した友定⁵⁾も、自己意識に関連した笑いの基本形のほとんどが2歳児クラスで出始め、「見られる自分に気づく」という形で最初に表れると指摘する。

これらの知見を踏まえ、筆者は「見られる自分」を意識し始めるとされる時期の子どもたちを対象とし、他者が「私」を見る「観客」として機能する「提示の関係」を意図する呼びかけに焦点を当て、保育所1・2歳児クラスにおける参加観察によって事例を収集し

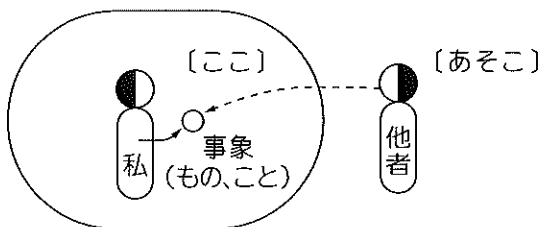


図1 「提示 (showing) の関係」(やまだ,1987)³⁾
Figure 1 Relationship of "showing" (Yamada,1987)

た。そして、このような呼びかけを「提示的呼びかけ」、見せようとしたモノや行為を「提示的呼びかけの内容」とし、どのような場面で、どのような他者に対して提示的呼びかけをし、その内容はどのようなもので、そこにはどのような自己の意識が窺えるのか検討した⁷⁾。その結果、子どもたちの提示的呼びかけには様々な思いが込められており、事例数にはかなり個人差があった。また、大きく分けて15の提示的呼びかけの内容があると考えられた(表1参照)。提示的呼びかけの内容によって呼びかける相手を選ぶ様子も窺え、保育者の願いや思いを子どもたちは感じとり、それに応えられる自分を見せようとしていること、「見せたい自分」を見守ってもらうことが大きな支えとなることも事例に表れていた。

表1 提示的呼びかけの内容と事例数

事例収集期間 提示的呼びかけの内容	1歳児 1-3月	2歳児 4-6月	2歳児 7-9月	2歳児 10-12月	計
作ったモノ	7	36	41	62	146
知こったモノ	1	11	19	9	40
影に写したモノ	1	6	5	11	23
見つけたモノ		7	2	4	13
自分の名前・マーク			4	1	5
自分の顔製品			2		2
面白いこと	6	22	54	45	127
モノを操作すること	2	16	17	19	54
飲食したこと	3	3	12	14	32
フリをすること	1	14	8	6	29
体を揺らすこと	3	2	11	8	24
身の回りのことができること		6	6	4	16
自分の影に起きたこと		2	2	7	11
友達とかかわっていること		2	2		4
報告したいこと		3	1		4
判断がつかぬ報酬・その他	2	2	4	2	10
計	26	132	190	192	540

注)2003年1月から12月までの一年間で収集した事例を4期に分けてまとめている。
各期の参加観察日は11日である。

Table1 Contents and The Number of Cases on Childrens' Calling and Showing Behaviors

次に、事例数が最も多いS子とA男を取り上げ、提示的呼びかけの内容、その場面、相手、そこに込められた思いについて、一年間の生活の流れの中で自己の意識とも関連させて考察した⁸⁾。その際には「自分のモノ」「自分のこと」という意識が感じられなかった「報告したいこと」は事例及び提示的呼びかけの内容からは省いた(S子61事例、A男81事例)。その結果は以下の通りであった。

S子(事例収集開始時1歳9ヶ月)の事例を検討すると、11の内容があると考えられた。そして、始めは「自分のモノ」と実感できるモノのみであったのが、2歳を過ぎた頃から次第に「自分のしていること」についての内容も現れ、「自分を見てもらいたい」という思いをはっきり感じとれるようになり、S子の中に自己の意識がはっきりしてきたことの表れと考えられた。その相手は一緒に遊ぶことが多かったこともあり、筆者が最も多かったが、少しずつその割合は減り、友達への呼びかけが少しずつ増えて行った。

A男(事例収集開始時2歳9ヶ月)の事例を検討すると、12の内容があると考えられた。事例収集前から「みて」と呼びかける姿があったというA男の場合、観察された内容にS子のような順序性はなかったが、その相手に特徴があった。筆者が参加観察の中で収集した事例であるため、事例数の少なかった1名を除くと、他児の場合は相手としては筆者が最も多かったが、A男のみが筆者より担任のa先生の方が多かった。相手が友達である割合も最も高く、クラスで最も年長であるA男の友達への関心の高さの表れと考えられた。

また、S子の場合には筆者と二人で遊びたいという思いが感じられることが多く、A男の場合は友達に対して多かった「面白いこと」が保育者の中では筆者に対して最も多かった。この結果は筆者のことを「せんせい」ではあるが友達に近い存在としてとらえていたためと思われた。

以上、これまでの研究から、子どもたちの提示的呼びかけには共通する部分もあるが、個人差もあること、その子どもの自己の意識も窺えることが明らかとなった。そこで、今回も二人の子どもの事例を取り上げ、提示的呼びかけの内容、その場面、相手、そこに込められた思いについて、一年間の生活の流れの中でその子どもの自己の意識とも関連させて考察していくことを研究の目的とした。

II 方法

以下の方法で収集した事例の中から、今回はB子とC男の事例を取り上げて考察する。

1 対象児

北九州市内A保育所の2002年度1歳児クラス、2003年度2歳児クラスで、事例収集期間を通して在籍した子ども男児11名、女児8名計19名⁹⁾。1歳児クラスから2歳児クラスへの移行時にクラス替えはなかったが、

担任保育者4名中3名が入れ替わった。(1歳児担任をa先生、b先生、c先生、d先生、2歳児担任をa先生、e先生、f先生、g先生とした。a先生は0歳児から2歳児まで担任であった。)

2 事例収集の期間

2003年1-3月、4-6月、7-9月、10-12月に各11日、計44日^{※2)}

3 事例収集の方法

週1日の割合で参加観察を行ない、子どもが他者に「みて」「みてて」と呼びかけた場面をその場で簡単に記録した^{※3)}。そして、担任保育者からその場面について聞いたこと、子どもたちの様子や保育の流れについて聞いたり話し合ったことも含め、保育後にフィールドノーツを作成した。先行研究では好きな遊びの時間を中心とした参加観察であったが、本研究では園生活の流れや周りの環境とのかかわりもふまえて考察するため、一日の参加観察をした(原則として9:30~17:30。そのうち、午睡のおおよその時間帯は12:30~15:00)。また、先行研究で使用したビデオ録画も用いなかった。時々クラスに入る保育者の一人として子どもたちとのかかわる体験を重視した考察をするため、保育者が意識して動きにくくなることを避けるためである。

4 事例のまとめ方

フィールドノーツから提示的呼びかけの記録を取り出し、事例としてまとめた。その際には、同じ子どもがその場で何度も呼びかけた場合や複数の相手に呼びかけた場合、ある子どもの呼びかけに触発されて他の子どもが呼びかけた場合も一事例にまとめた。また、具体的に見せるモノや行為は違っても「提示的呼びかけの内容」としては同じと考えられる一連の呼びかけも一事例とした。

5 今回事例として取り上げる対象児

今回はB子とC男の事例を取り上げる。いずれも4月生まれで多くの提示的呼びかけの内容が観察されたこと、筆者とのかかわりも多かったことに加え、提示的呼びかけに特徴があったためである。なお、B子は参加観察日に欠席があったこと、11月末に退所したことから、観察日数は1-3月11日、4-6月11日、7-9月9日、10-12月4日、計35日となり、C男は参加観察日の欠席はなかったため、観察日数は計44日であつた。

また、今回も「報告したいこと」は事例及び提示的呼びかけの内容からは省いて考察する。

III 事例と考察

収集された事例はB子28事例、C男54事例であった。二人の事例を検討すると、それぞれ11の提示的呼びかけの内容があると考えられ、B子には「その他」の内容とした事例もあった(表2、表4参照)。以下、各内容について最初に観察された事例を中心にまとめ(表3、表5参照)、その時期のその子どもの姿もふまえながら考察していく。

1 B子の提示的呼びかけの事例と考察

1) 1歳児クラス1-3月

4月生まれのB子は生活や遊び、言葉の面でもしっかりとしたお姉さんの存在であった。その一方で、登園時に母親と離れたがらなかつたり、気持ちの立て直しができずにボーッとしている姿が見られることもあった。

モノを操作すること 初めての観察された内容は「モノを操作すること」の事例B1であり、B子自身も「こんなことができる自分」という意識を持ち、そういう自分を見せたいと思っていることが窺えた。この内容は他児では保育者への呼びかけが多かったが、B子は友達にも呼びかけることが特徴的であった。ここでも

表2 B子の提示的呼びかけの内容と事例数

事例収集期間 提示的呼びかけの内容	1歳児	2歳児	2歳児	2歳児	計
	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	
作ったモノ	1	1	2		4
知に入ったモノ					
身に着けたモノ		1			1
見つけたモノ		1			1
自分の名前マーク					
自分の精糖品					
面白いこと	1	2	2		5
モノを操作すること	1	3	1		5
飲食したこと		1			1
フリをやること		1			1
物を操作すること		1	1	3	5
身の回りのことができること		2			2
自分の身に起きたこと			1		1
友達とかわっていること		1			1
判断がつかない事例・その他			1		1
計	3	14	8	3	28

Table2 Contents and The Number of Cases on Girl B's Calling and Showing Behaviors

子どもの提示的呼びかけについての一考察(3)

表3 B子の提示的呼びかけの事例

【事例 B1】1月15日(2歳8ヶ月) 午後の遊び	モノを操作すること	パズルをするL男と私のところに、B子が自分のロッカーから小枝を取り出して持って来て「L男くん、みとってねほら」と言い、親指と人差し指でクルクル回転させる。L男は黙って見ている。B子は「せんせい、みててね」と私にも見せる。感心した私が「わあ、すごいねえ」と言うと、B子は得意気に笑う。
【事例 B2】2月15日(2歳9ヶ月) 午後の遊び	作ったモノ	B子が「せんせい、みてー」と四角い土台の縁にさした青と赤の「ブナブチ」(土台に差し込んで模様を作る遊具「リモーザ」)を見せる。私が「青と赤できれいね」と言うと、他の保育者にも見せに行く。そして、ロッカーの上に置いてと言う。「飾るの?」と確認しながらロッカーの上に下から見えるように置くと、B子は満足そうに笑う。
【事例 B3】2月28日(2歳10ヶ月) 給食後の遊び	面白いこと	B子がままごとの食べ物のおもちゃを持ってきて私と話していた時、たまたま床でケーキのおもちゃがクルクル回る。それを面白く思ったB子は、「みとってよ。ケーキが回りよう」と私に言い、ケーキを回して見せる。
【事例 B4】4月9日(2歳11ヶ月) 園庭に出る時	身の回りのことができること	ベランダで靴を履き替えている時、B子は「みとって」と私に言い、立ったまま靴が履けると言う。そばにいたO男にも何度も声をかけているので、私もO男にB子のことを見てくれるよう頼むが、O男は靴を履くのに一生懸命でそんな余裕がない。それで、「O男くん靴履くので一生懸命だから先生見てる」と言うと、B子は納得して立ったまま靴を履くところを私に見せる。
【事例 B5】4月23日(3歳0ヶ月) 朝の読み聞かせ	体を操作すること	子どもたちが集まって座り、e先生が紙芝居の絵を見せながら話をしている時、B子は後ろに座っていた私を振り返り、「みよってよ」と言う。そして、「こんなことができるー?」と言って足をクロスさせて四つんばいになって見せる。それを見たK男も真似して同じように四つんばいになる。
【事例 B6】4月30日(3歳0ヶ月) 着替え	身につけたモノ	B子の着替えを手伝っている時、B子は洋服のうさぎの柄を指さして「みて、うさぎさん」と言う。そして、「おかあさんがかってくれた」と言う。
【事例 B7】5月21日(3歳0ヶ月) 園庭での遊び	見つけたモノ	B子は園庭で見つけた実を私に差し出して「ねえ、みて」と言う。私が「なに、それ?」と聞くと黙ってしまう。その後、B子は園庭にいたL男の姉にも実を差し出して、「ほら、みてーみてー」と言う。
【事例 B8】5月21日(3歳0ヶ月) 給食	飲食したこと	B子はa先生に「せんせい、みよって」と言い、パンをちぎる。a先生は「ちぎって**レディーみたい。レストランに行けそう」と言う。B子はニコニコしている。その後も「みよって」と言ってパンをバクッと食べたり、お椀を持って「せんせい、みえる?」「せんせい、みて」等何度も言う。a先生はB子のそばを離れる前に、B子の頭を優しく撫でてから他の子どものところへ行く。(**は聞き取れなかった部分)
【事例 B9】5月21日(3歳0ヶ月) 午後の遊び	フリをすること	B子はK男に「ねー、みよってー」と言い、人形用の哺乳瓶で飲むフリをする。
【事例 B10】6月11日(3歳1ヶ月) 給食後の遊び	友達がかかっていること	B子とL男が私の膝の取り合いでけんかになり、B子はブロックを長くつなげたモノでL男を叩き、L男は大声で泣く。そしてL男もB子のことを叩き、B子も大声で泣き始める。ブロックで作ったモノもバラバラになってしまう。その後、L男がブロックをつなげたモノを持って来たことでB子も笑顔になり、始まった読み聞かせには参加せず、保育室の隅で二人で楽しそうに話している。 その様子がホッとして、読み聞かせの場の一番後ろで絵本を見ていた私に、B子は「みてー、L男くんが!」と呼びかける。見てみると、B子は驚いたようなうれいような何ともいえない表情で私を見ている。B子はブロックを置いたテーブルの横に座っており、L男がそこにまたブロックを何度も持って来ていた。
【事例 B11】7月23日(3歳3ヶ月) リズム遊び	その他	B子は保育参加の母親の膝の上に座る。子どもたちは2つに分かれ、各々保育者について真中に出て、リズムに合わせて動物になって遊ぶ。B子は自分の番になると元気がない声で母親に「みよってね」と言い、母親は「みよよ」と言う。そしてB子は他の子どもと一緒に動物になる遊びに参加する。
【事例 B12】8月12日(3歳3ヶ月) 午前の遊び	自分の身に起きたこと	B子は私に「みて」と人差し指を見せる。そして、「血が出た」と言う。
【事例 B13】11月19日(3歳6ヶ月) 午前の遊び	体を操作すること	B子は園庭の水溜りを見つけ、a先生に「みよって」と言い、跳び越えようとする。a先生は「みよよ」と言い、そばでB子の様子を見守る。しかし、他の子どもが入って来たりして、すぐには跳べない。やっとならぬうちに、B子は少し助走をつけて水溜りを跳び越える。その瞬間、a先生は「ジャンプ!」と声をかける。

Table3 Cases of Girl B's Calling and Showing Behaviors

最初に呼びかけたのはB子が親しみの気持ちを強く持っていたL男であり、「友達にこんなことができる自分を見せたい」という思いが感じられた。2歳児クラスでも、L男やa先生、筆者に見せる事例があった。

作ったモノ 次に見られた「作ったモノ」の事例B2では、自分なりに作り上げた満足感・喜びをそのモノを見せて伝えたい、「こんな素敵なモノを作った自分」を見てほしいという思いが感じられた。2歳児クラスでも、F男やa先生、筆者に見せる事例があった。

面白いこと 遊具が回転することに「面白さ」を見出し、筆者に呼びかけた事例B3もあり、「こんな面白いことをしている自分」を見せたいという思いも感じられた。2歳児クラスでも、筆者やL男に見せる事例があった。

2) 2歳児クラス4-6月

B子はこの時期に多くの事例が観察された。友達とのトラブルの際にキーンと声をあげてしまうこともあり、「こんなことができる自分」だけでなく、「不安な気持ちでいる自分」を感じていると思われる事例も観察された。

身の回りのことができること 2歳児クラスになってすぐの頃、「身の回りのことができる自分」を見せる事例B4が観察された。この内容が見られたのはB子が最初であり、友達に呼びかけた事例があったのもB子のみであった。ここでもB子はそばにいたO男にも見せようと何度も呼びかけていた。L男に呼びかけた事例もあり、事例B1と同様「友達にこんなことができる自分を見せたい」という思いが感じられた。

体を操作すること^{註4)} 「こんなことができる？」と言いながら「思うように体を動かせる自分」を見せる事例B5もあった。

身に着けたモノ 「身に着けたモノ」の事例B6では、母親への思いが感じられた。B子は事例の前にも筆者にこの服の話をしており、「うさぎさんがついた新しい服」を見せたいだけでなく「おかあさんがかってくれた服を身に着けた自分」を見せながら、母親とのつながりを確かめているように感じられた。

見つけたモノ 朝から気持ちの立て直しができないでいたある日には、提示的呼びかけが何度も観察された。園庭で実を見つけ、「自分が見つけた」という喜び・驚きをそのモノを見せて伝えようとする事例B7が観察され、気持ちの立て直しができたように思われたが、給食時には次の様な姿があった。

飲食したこと 事例B8では、食の細いB子が「きちんと食べている自分」をa先生に見せてほめてもらい、

うれしい気持ちになったようで、その後も何度も呼びかけていた。不安な気持ちが残るB子は、そうやってa先生にそばにいて見守ってほしかったのだと感じられた。そして、a先生もその思いを受け止め、呼びかけに応じて見守っていた。

フリをすること この日には「赤ちゃんのフリをする自分」を見せる事例B9もあった。当時、B子の母親のお腹には赤ちゃんがいた。そのことも、母親と離れたがらなかつたり、気持ちが揺れ動くことと関係していると思われた。

友達とかかわっていること 仲良しのL男とけんかしてしまったB子の気持ちの動きが窺えた事例B10もあった。けんかの後、悲しい表情であったB子は、L男がバラバラになったブロックをつなげて持って来てくれると晴れ晴れとした笑顔になった。そして、それまでの経緯を見ていた筆者に呼びかけて「L男とまた仲良く遊ぶ自分」を見てもらい、その喜びを伝えなかったのだと感じられた。

3) 2歳児クラス7-9月

7月にB子に弟が生まれ、弟と一緒に生活にも慣れていったようで、B子は次第に落ち着いてきた。

その他 事例B11の日、B子は保育参加をしていた母親に朝からべったりであった。そして、みんなで一緒にリズムに合わせて動物になって遊ぶ場面になると、気が進まない様子であった。しかし、「みよってね」と呼びかけ、「頑張っている自分」を見守ってもらうことを支えとして遊びに参加していた。

自分の身に起きたこと 指の怪我が気になるB子が、その傷を見せ、「痛い思いをした自分」に共感してもらいと思っていることが感じられる事例B12もあった。

4) 2歳児クラス10-11月

この時期は欠席が多く、11月末で一時退所したこともあり、観察できた事例数は少なく、「体を操作すること」のみの3事例であった。そして、そのうちの2事例では、観察当初のような得意気に「こんなことができる自分」を見せたいというよりも、保育者に見てもらうことを支えとして挑戦したいという思いが感じられた(事例B13)。保育者によると、食事の際に空になった器を担任一人ひとりに差し出して「みて」とうれしそうな表情で伝える姿もあったという。

以上、B子の提示的呼びかけの事例を検討すると、「こんなことができる自分」を感じた時には、友達や保育者に見せ、その「自分」をより実感しているようであった。そして、友達にも見せようとするのが特徴的であり、「お姉さんである自分」を見せたいという思いか

らと考えられた。一方、不安だったり悲しい気持ちだったり、立ち直ってうれしい気持ちになった時には保育者に呼びかけており、共感してほしい、見守ってほしいという思いからと考えられた。観察期間の最後の方の「体を操作すること」の事例では、それまでの「こんなことができる自分」とは違う意識を持ち始めた様子が窺えた。

2 C男の提示的呼びかけの事例と考察

1) 1歳児クラス1-3月

C男は事例収集前から活動的な遊びを好む一方、ブロックを根気よく組み立てて乗り物に見立てて遊ぶ姿も見られていたという。

作ったモノ 最初に見られた内容は「作ったモノ」であり、パズルをしている時にN子に「みてみてー、ほら」と呼びかけた事例であった。この内容は他に事例C1が見られ、ブロックで作った「おうち」に「おともだち」がいるというモノであった。このように「人が共にいる」というイメージのモノを作ってみせようとするのは、C男に特徴的な姿となる。

身に着けたモノ 事例C2でC男が見せたズボンは新しいモノのようで、みんなで輪になって和やかな気分である時に、「このズボンを身に着けた自分」のうれしさを伝えたくなくてb先生に呼びかけたように思われた。2歳児クラスでも、筆者に対して1事例あった。

飲食したこと 同じ日、給食時にもC男は事例C3でb先生に呼びかけてお茶を飲んでおり、見てもらうことを支えとして、飲み干しているようだった。2歳児クラスでも、L男と筆者に対して各1事例あり、そこでは食の喜びが感じられた。

面白いこと この日には、遊具の土台から透けて向こう側が見えることに「面白さ」を感じ、M子に呼びかける事例C4もあり、事例B3と同様、「こんな面白いことをしている自分」を見せたいという思いも感じられた。2歳児クラスでは、B子に対しての1事例以外は全て筆者に対してであった。

2) 2歳児クラス4-6月

C男はブロックやウレタン積木を組み合わせ、さらにモノを作る楽しさを味わっていた。そして、ブロックの乗り物に人形を乗せて友達に呼びかけ、「〇〇ちゃん(友達の名前)とおかあさん」等言ってみせる姿もあった。13事例中4事例が「作ったモノ」の事例であり、そのうち2事例でも車に人形を乗せてa先生に「せんせい、みて。C男のパパがうんでんしてるの」と言ったり、A男に「Aちゃんとおかあさん」と言っ

ていた。

見つけたモノ 事例C5では事例B7と同様、落ちていた実を見せ、「こんなモノを見つけた」という喜びをa先生に呼びかけて伝えようとしていた。

自分の身に起きたこと 事例C6では、a先生に呼びかけて「困っている自分」を見せ、助けてもらいたいと思っていることが感じられた。

気に入ったモノ 「作ったモノ」と同じく4事例あったのが「気に入ったモノ」の事例であった。そして、事例C7では「作ったモノ」のように絵本のペンギンを「B子ちゃんとおかあさん」と言ってB子の母親に見せていた。気に入った『雪女』の絵本を持ち歩いては見せ、筆者や他の保育者に何度も読んでもらう姿もあった。

表4 C男の提示的呼びかけの内容と事例数

事例収集期間 提示的呼びかけの種別	事例収集期間				計
	1歳児 1-3月	2歳児 4-6月	2歳児 7-9月	2歳児 10-12月	
作ったモノ	2	4	8	13	27
知ったモノ		4	2		6
身に着けたモノ	1	1			2
見つけたモノ		1	1	1	3
自分の名前マーク			1		1
自分の作品					
面白こと	1	1	4	1	7
モノを操作すること				1	1
飲食したこと	1	1		1	3
フリをすること			1		1
体を操作すること					
身の回りのことができること			2		2
自分の身に起きたこと		1			1
友達とかかわっていること					
判断つかないもの・その他					
計	5	13	19	17	54

Table4 Contents and The Number of Cases on Boy C's Calling and Showing Behaviors

3) 2歳児クラス7-9月

この時期、C男は室内を走り回る、癩癩を起こす、指しゃぶりをするなど、気持ちが不安定な姿が見られた。母親の仕事が特に忙しかったようで、我慢することも多かったようだ。8月中旬頃から、家族でゆっくり過ごせたためか安定してきたようだったが、午睡時に保育者の腕を触りながら眠ることは続いた。

この時期も19事例中8事例が「作ったモノ」の事例であった。ある時、車に人形が2体乗っていたので、筆者が「誰？」と尋ねると「おかあさんとC男」と答えた。しかし、自分からそう言ってみせる姿は観察されなかった。作っている時には「自分と母親」という

表5 C男の提示的呼びかけの事例

【事例 C1】3月15日 (2歳10ヶ月) 朝の遊び 作ったモノ	他の子どもに頼まれてパズルをとろうとしていた私に、ブロックでずっと何かを作っていたC男が「せんせい、みて」と言う。それで、パズルを持ってきた後、C男の横に座って話を聞く。 C男はレールのブロックを組み合わせて円形にした中に、ブロックの人形2体をテーブルについでいるように置いている。円形になっているところが「おうち」で、2体の人形は「おともだち」と言う。板状のブロックを組み合わせ、そこにブロックの車もつけてある。それは「しょうぼうしゃ」と言う。
【事例 C2】3月5日 (2歳10ヶ月) リズム遊び後 身につけたモノ	「輪になって座れるかな？」とc先生が言い、なんとか手をつなぎ輪になって床に座る。その時、C男は近くに座っているb先生に「みて、せんせい」と言って、グレーのズボンの腰のところをしばるとモを見せる。(ヒモは蛍光オレンジで着色がしてある。新しいズボンようだった。)
【事例 C3】3月5日 (2歳10ヶ月) 給食 飲食すること	C男はお茶を飲む前に、b先生に「せんせい、みてて」と言ってから飲む。
【事例 C4】3月5日 (2歳10ヶ月) 午後の遊び 面白いこと	C男は「ブチブチ(土台に差し込んで模様を作る遊具「リモーザ」)をしていて、「みてー」と途中まではめたモノを手にとり、土台の網目からテーブルの向かいに座っているM子のをのぞいて笑う。
【事例 C5】4月30日 (3歳0ヶ月) 午前の遊び 見つけたモノ	園庭で遊んでいた子どもたちにa先生が「ダンゴムシいるか見に行こう」と呼びかけ、園舎の裏側へ行く。 C男はそこで拾った実を「せんせい、せんせい、みて」と言い、a先生に見せる。a先生はその実を見て、「さくらんぼね」と答える。
【事例 C6】5月28日 (3歳1ヶ月) 午後の遊び 自分の身に起きたこと	C男が「せんせい、みて。こんなんだった」とa先生に自分の手を見せる。a先生は「どうしたの?」「お花触ったの?」と聞くと、C男は「うん」と言う。(ままごとコーナーのテーブルの花を触ったらしい。)
【事例 C7】6月4日 (3歳1ヶ月) 午後の遊び 気に入ったモノ	B子の母親がB子を迎えに来る。C男はB子の母親がa先生と話しているところにペンギンの写真絵本を持って行き、「みて」と何度も呼びかける。それに気づいたB子の母親に、C男はペンギンの写真を指さして見せながら笑顔で「B子ちゃんとお母さん」と言う。(その前にペンギンの写真絵本をB子とC男とで見ていた時、C男は「これ、B子ちゃん」などと指さしながら言っていた。)
【事例 C8】7月2日 (3歳2ヶ月) 着替え 身の回りのことができること	C男は他の子どもの着替えを手伝っていたa先生に「みて」と言い、パンツを履こうとする。 a先生は「みよくよー」と言って、そばに座ってその様子を見守る。
【事例 C9】8月26日 (3歳3ヶ月) 午睡 自分の名前	C男とA男は隣同士で布団をしいてもらったのだが、なかなか寝ない。私が側に行って寝ようと誘っても聞かず、棚の上の口ふきタオルのカゴを触り始める。C男は「みて、C男って(書いてあるという意味)」とカゴに貼ってある名前のシールを指さして笑顔で言う。それを聞いたA男も、笑顔で「Aちゃんって」とシールを指さして言う。
【事例 C10】9月1日 (3歳4ヶ月) 午後の遊び フリをすること	私がままごとコーナーでおもちゃの包丁を使って「ごはん」を作っている子どものそばで見ていたとき、C男がブロックで作ったモノを持ってくる。そして、「みて、きりよう」と複雑な形に作った飛行機を、2つ作った「パンパン(ピストルのこと)の1つで切る真似をする。私が「飛行機が切れるの?」と聞くと、C男は笑って「切れるよ」と言い、手にした「パンパン」を「これ包丁」と言う。
【事例 C11】10月22日 (3歳5ヶ月) 午後の遊び 作ったモノ	C男がウレタン積木(縁に両面テープがついている)を組み合わせているので、私が「くつついた」と言うと、C男は「みて、くつついた」と言う。それを見たI子も同じように組み合わせ、「みて」と言う。C男はさらに組み合わせ、E男たちに「これ、みて」と言う。 その後、C男は作ったモノを持ち歩いている時、私に「みて、バルタン星人」と言う。本当にそのような形だったので、「ほんと、バルタン星人みたいだね」と言って見ていると、今度は床で動かしながら「みて、バルタン星人がブルドーザーになったよ」と言う。
【事例 C12】12月25日 (3歳7ヶ月) 午後の遊び モノを操作すること	保育室に戻ると、テーブルでカエルの玩具(「フログホッパーズ」)で遊んでいたC男とA男に呼ばれる。 それで、そばにいてその様子を見守る。C男は「ほら、みて」と黄色のカエルを4匹ぐらい重ねて言う。

Table5 Cases of Boy C's Calling and Showing Behaviors

イメージがあっても、「作ったモノ」を見せる時には、作り上げた喜びや作ったモノで遊ぶ楽しさを分かち合いたい、相手を喜ばせたいという思いから「〇〇ちゃんとおかあさん」と言っているのではないかと考えられた。

身の回りのことができること C男は1歳児クラスの頃から自分で着脱をしようという気持ちがあり、服もたたもうとしていたが、そのようなC男でも「身の回りのことができちんとできる自分」を保育者に見守ってもらうことが大きな支えとなっていることが事例C8からわかる。そして、この時期に同様の場面で見られたもう1事例の相手もa先生であった。

自分の名前 この内容はクラス全体でもこの時期に初めて見られた。事例C9ではカゴに貼られたシールの名前を指してA男に呼びかけたのだが、実際は自分の名前ではなかった。しかし、「シールに自分の名前が書いてある」ということはわかっていて、うれしそうに見せていた。

フリをすること C男は作ったモノを持ち歩くことが多かったのだが、事例C10でもブロックで作った「飛行機」と「バンバン」(ピストル)を持ち歩いており、包丁を使ってままごとをやる友達を見て、「バンバン」を「包丁」に見立てて「飛行機」を切るフリをしていた。

4) 2歳児クラス10-12月

「作ったモノ」の事例はさらに増え、17事例中13事例あった。見守ってもらうことで、作る楽しさや見せたいという思いも増すようで、さらにモノを作り続けたり、作り変えては呼びかける姿も見られた(事例C11)。

モノを操作すること 事例C12のカエルの遊具は、指で押すと跳んだり何匹も重ねられる面白さがあり、「このカエルをうまく重ねた自分を見てほしい」という思いが感じられた。

以上、C男の提示的呼びかけの事例を検討すると、その半数が「作ったモノ」であることが特徴的であった(表4参照)。モノを作ることが好きで熱心に取り組んでいたこと、作り上げると満足感・達成感から「こんな素敵なモノを作った自分」を見せたいという思いが生まれやすいこと、そのためか作ったモノを持ち歩くことが多かったこと、室内での遊びなので、すぐそばに見せたい相手もいること等がその理由と考えられる。「人が共にいる」イメージのモノを作った際に「〇〇ちゃんとおかあさん」等言って見せることも特徴的であったが、作り上げた喜びや作ったモノで遊ぶ楽し

さを分かち合いたい、相手を喜ばせたいという思いからと考えられた。

C男にも気持ちが不安定な時期があったが、B子のような「不安な気持ちでいる自分」を見守ってもらおうとする呼びかけは観察されなかった。もっとも、「自分の身に起きたこと」を見せて助けてもらいたい時、「身の回りのことができる自分」を見守ってもらいたい時にはa先生に呼びかけていた。

また、C男は活動的な遊びも好む子どもであったが、「体を操作すること」の事例は収集できなかった。他者を意識せずに自分で楽しんでいるためかも知れない。

IV まとめと今後の課題

今回事例を取り上げたB子とC男も、提示的呼びかけの内容によって相手を選んでいて。「面白いこと」の相手は友達と筆者のみであり、A男やS子同様、筆者を担任保育者とは違う友達に近い存在としてとらえていたことが窺えた。また、0歳児クラスから保育所生活をしている二人にとって、入所時からの担任であり、自分の気持ちをきちんと受け止めて見守ってくれるa先生には絶対的な信頼感が感じられた。不安な時、見守ってもらいたい時に呼びかけており、自分の気持ちを受け止め、その気持ちにきちんと応えて見守ってくれる保育者の存在が、不安な気持ちから立ち直る時、自分でやろうという気持ちで取り組む時に大きな支えとなることがわかる。

そして、二人の友達への関心は、呼びかける相手が筆者の次に友達が多かったこと(B子:筆者16事例、友達9事例、C男:筆者27事例、友達16事例、いずれも相手が複数の場合含む)に加え、B子では「こんなことができる自分」を見せる呼びかけに、C男では「作ったモノ」を見せる呼びかけに特に表れていた。

気持ちが不安定な時期、B子とは対照的にC男にはそれとはっきりわかる呼びかけは見られず、不安な気持ちを抱えていてもそのような自分をストレートに表現しない子どもがいることがわかった。また、活動的な子どもであるC男に「体を操作すること」の事例が観察されなかったことから、好きなことや好きな遊びでも、見せたいという思いが生まれにくい行為や場面もあることが窺えた。

以上のことを踏まえ、今後もさらに一人ひとりの提示的呼びかけの事例について一年間の流れの中で考察していきたい。そして、「並ぶ関係」を求める呼びかけについても事例をまとめ、一人ひとりの子どもの中で

二つの呼びかけがどのように見られるのかについても、自己の意識の芽生えとも関連させながら考察していきたいと考えている。

注

- 1) 事例収集開始時に言葉が出てなかった2名は除き、事例収集期間の最後の1ヶ月を残して退所した2名(1名はB子)は含めた。○男は男児、○子は女児を表し、4月生まれから順にA男からS子までアルファベットで表記している。
- 2) 各期の日数を同じにするため、7-9月には10月1日も含めた。一日の園生活の流れや一人ひとりの子ども理解のため、2002年11-12月にも計8日の参加観察を行った。
- 3) この子どもたちの場合、「みよって」「みとって」(この地域の方言)と呼びかけることもあったが、「みてて」と同じ意味ととらえた。
- 4) 体の操作はモノの操作を伴う場合があったが、その場合は意識が体の操作により向いていると思われる事例を「体を操作すること」、モノの操作により向いていると思われる事例を「モノを操作すること」とした。

引用文献

- 1) 福崎淳子 幼稚園新入3歳児の遊び場面における「みてて」発話 保育の実践と研究 第5巻第2号 pp.42-59 2000
福崎淳子 幼児の「みてて」発話にみられる関係の構造分析 日本女子大学紀要 家政学部 第48号 pp.17-23 2001a
福崎淳子 「みてて」発話からとらえる新入3歳児の他者関係—個別性の視点からの検討— 保育の実践と研究 第6巻第2号 pp.14-31 2001b
福崎淳子 「みてて」発話からとらえる幼児の他者意識—見せたい相手はだれか— 保育学研究 第40巻第1号 pp.83-90 2002

- 福崎淳子 幼児の「みてて」発話—見せようとしているモノは何?— 保育の実践と研究 8巻第2号 pp.47-55 2003
福崎淳子 幼児の「みてて」発話における三項関係—関係を繋ぐ図式化の試み— 幼児教育学研究 第11号 pp.42-51 2004
- 2) やまだようこ ことばの前のことば—ことばが生まれるすじみち1— 新曜社 p.158 1987
 - 3) 前掲書2) p.148
 - 4) 阿部和子 子どもの心の育ち—0歳から3歳— 萌文書林 p.199 1999
 - 5) 阿部和子 乳幼児期の「心の教育」を考える—かかわりの中から見えてくる「自己」の育つみちすじ— フレーベル館 pp.195-196 2001
 - 6) 友定啓子 幼児の笑いと言達 到草書房 pp.126-127 1993
 - 7) 拙稿 子どもの提示的呼びかけについての一考察—保育所1・2歳児クラスにおける参加観察から— 西南女学院短期大学研究紀要 第50号 pp.29-41 2004
拙稿 子どもの提示的呼びかけについての一考察—保育所1・2歳児クラスにおける参加観察から—(2) 西南女学院大学紀要 第9号 pp.206-215 2005
 - 8) 拙稿 子どもが他者に見せたい自分についての一考察—保育所1・2歳児クラスにおける参加観察から— 保育学研究 第43巻第2号 pp.21-33 2005

謝辞

参加観察に協力して下さった保育所の先生方と子どもたちに感謝申し上げます。

付記

本稿の一部については、以下の題目で日本保育学会第58回大会において口頭発表した。

「子どもの提示的呼びかけについての一考察(2)
—保育所1・2歳児クラスのB子の事例をもとに—」

A Study of Childrens' Calling and Showing Behaviors (Part 3) : Based on Cases of Two Children in One- to Two-Year-Old Nursery Classes

Hisako Nakashima

< Abstract >

The author conducted participant observation in one- to two-year-old nursery classes for a year, collecting cases of childrens' calling and showing behaviors. In this study, I took cases of two children, and considered these childrens' calling and showing behaviors, relating to their developing self-consciousness.

As a result, in the girl's observations, calling and showing behaviors often occurred when she felt her "self being able to do that," and she realized who that self was. In the boy's observations, calling and showing behaviors often occurred when he made various objects, and he felt his own "self being able to make such lovely objects" more strongly.

Then, they chose partners according to the contents of their calling and showing behaviors. For example, their calling and showing behaviors occurred to friends and to this writer-observer when they wanted to show their "self able to find interesting things," and to a nursery school teacher they trusted when they wanted to show their "self being anxious" and wanted to be supported emotionally.

Keywords: calling and showing behaviors , nursery , one - to two - year - old classes , self-consciousness , participant observation